

コーチ会議実施のお願い

早急にコーチ会議を実施していただき、下記手順で進めていただきますようお願いいたします。

コーチ会議（チームに携わる全コーチ）の開催

→実際に起きた事例と、資料を使用していただき、ラグビーのインテグリティについての勉強会の実施

→その際に、チーム・個人での宣誓書の配布（後日回収）

→後日、協会へ宣誓書、コーチ会議実施報告書及び議事録の送付

※実施報告書・議事録については、参加人数、概要が記されているもので、様式は問わない。

資料

ラグビーの価値とインテグリティ

日本ラグビーフットボール協会は、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会、2020 年東京オリンピックに向けて策定した JRFU 戦略計画 2016-2020 の重要な柱として「Keep Integrity」を加えています。

《JRFU 戦略計画 2016-2020 行動指針》

Be Open・・・人々とつながり、社会に役立とう。

Play Globally・・・世界視点で考え、実行しよう。

Keep Integrity・・・常に真摯であり、誠実でいよう。

インテグリティ追求に向けて、以下に日本ラグビーフットボール協会の方針等をお伝えします。

①“インテグリティ”への方針

ラグビーというスポーツが人々にもたらす価値は多様であり、プレーヤーだけでなく、関わる全ての人々の人生を豊かにしてくれるものと信じています。ラグビーがその価値を損なうことなく、さらに、その価値を高められるように、インテグリティを追求すること、高いレベルのインテグリティを実現することを最重要課題とします。インテグリティへの取り組みは、コンプライアンス遵守(法令順守)を大きな要素としますが、インテグリティに取り組むということは、より積極的にラグビーの価値を高めることと考えます。

ラグビーの価値を高める 5 つの要素が「ラグビー憲章」の中で述べられています。

ひとつひとつがとても重要な意味を持っていますが、インテグリティは、すべての土台になる基本の姿勢・精神と言えます。

- ・品位 INTEGRITY
- ・情熱 PASSION
- ・結束 SOLIDARITY
- ・規律 DISCIPLINE
- ・尊重 RESPECT

ラグビーに関わる人々(選手、指導者、観客、選手の家族、協会関係者など)には、ラグビーの場だけでなく日常生活や社会生活の場において、インテグリティという言葉が意味するところの「品位」「高潔さ」「健全性」を実現するための行動が求められます。

インテグリティ追求のためには、「暴力行為」「ハラスメント」「アンチドーピング」「賭博」「反社会勢力との接触」などのコンプライアンス違反や、「ガバナンスの欠如」などを排除することが必須とされます(参照：日本スポーツ振興センター提唱の「Integrity of Sports」)。

指導者(含むチームマネジメント)の方々へ

- ・中学生が楽しむことを最大の目的にしてください。
- ・指導者は選手の鏡です自身の行動や言動は選手に反映される事に注意しましょう。
- ・ご自身や自チームを優先することは簡単です。自ら公平性を放棄しないよう、他チームや他チームの指導者を尊重(ラグビー精神の原点)してください。
- ・試合だけでなく、組織やチーム作りから、相手や近隣チームの仲間を含めて One for All の精神と行動を遵守しましょう。
- ・自チームの利益を優先しすぎないで、競技規則と同様にルールの中かで公平性を欠如することのないよう注意して下さい。
- ・能力の高い選手を優先することのないよう、思春期の選手の心の傷をつけないように配慮することが有能な指導者です。
- ・選手とは対等です、生まれた時や役割が違っただけで人間の優劣には繋がりません。
- ・差別やハラスメントが起きないよう注意し、自らを律して行動してください。
- ・選手や保護者の方々と同じ時を楽しむ余裕をもってください。
- ・安全確保が最優先、選手の健康状態の確認を怠らないよう無理は禁物です。
- ・保護者の方との信頼関係の構築は最も大切ですが、時には、適度な距離が必要な場合もあります。
- ・公平な選手起用と十分な説明ができるコミュニケーションスキルを身につけましょう。
- ・選手の目的は多種多様です。中学生の個々の目的に沿った指導とチーム作りをこころがけましょう。
- ・選手の自主性を重視し、選手を肯定してください。
- ・選手が持つ能力(顕在、潜在)を見つけ、育てる努力が必要です。伸びるタイミングは選手につかませ、支援してください。
- ・選手が怪我や病気で患った時は、まずは治療を優先し、無理は禁物です。
- ・能力の優劣だけを鮮明にして選手を評価するのは禁物です。運動能力だけで人の価値が決まるわけではありません。
- ・成長期の心身を持つ選手の身体的リスクに最大の配慮をしてください。
- ・指導者も試合から学び、多くの仲間と知り合い、交流する心をもってください。
- ・強いチームや勝てるチーム作りのみを優先するのは禁物です。勝利は結果、その事実を関係者全員で見つめ、次につなげてください。
- ・選手は義務教育課程の中学生です。時間的、経済的に合理的な活動を心がけて下さい。

ラグビーの指導現場及び試合での暴力根絶の宣言

スポーツの本質は楽しむことです。誰もが目的やレベルに合わせてスポーツに親しむことで、達成感や充実感、生きがいを享受します。また、プレーヤーのひたむきにプレーする姿は、観る者に勇気と希望、生きる活力を与えてくれます。

未来を担う子どもたちや選手を育てる指導者は、日本のスポーツ発展の一翼を担っています。プレーヤーがラグビーを楽しみながらレベルアップしていくこと、彼らの向上心を高め、挑戦する姿勢を後押しすることが指導者に課せられた重要な使命なのです。失敗を恐れない、たくましい選手を育てるためには、時として厳しい指導も必要です。それ自体を否定するものではありませんが、その中に暴力・暴言が含まれるような指導はあってはなりません。ジュニア世代のモットーである「完成より育成を」、そしてラグビー憲章にある「INTEGRITY」(品位)の精神を基盤とし、これからも一層徹底していきます。ラグビーの指導環境の改善に努め、その努力を惜しみません。そして、登録チームのすべての指導現場での暴力・暴言を用いた指導をしない、させないこと、いかなる目的であっても暴力を許容せず、スポーツ現場における暴力根絶の努力を続けることを誓います。

これらの考え方に賛同いただき、関わる全ての皆さんと協力し、団結してより良い指導環境をつくっていきたいと考えています。以下の宣誓書にご署名していただき、ご賛同の意思を示していただけたら幸いです。何卒ご協力の程よろしくお願いいたします。

令和元年12月 21日

福岡県ラグビーフットボール協会

会長 田 中 優 次 殿

宣 誓 書

私は、次の事項を遵守することを誓います。

- あらゆる活動において「INTEGRITY」(品位)を追求します。
- 暴力・暴言を用いての指導をしません。させません。
- 日本スポーツ協会、日本ラグビーフットボール協会の諸規定に従います。

宣誓日 令和 年 月 日

所 属 チーム : _____

JRFU 認定指導者番号 : _____

(公認指導者資格がない場合は記入の必要はありません)

氏 名 : _____ (印)

令和元年 12月 21日

福岡県ラグビーフットボール協会

会長 田 中 優 次 殿

宣 誓 書

私たち、_____（チーム名）は次の事項を遵守することを誓います。

1. あらゆる活動において「[INTEGRITY]（品位）」を追求します。
2. 暴力・暴言を用いての指導をしません。させません。
3. いかなる目的であっても暴力を許容せず、スポーツ現場における暴力根絶の努力をつづけます。

なお、以上のことが守れない場合、チームの活動停止、公式戦への出場停止処分も受け入れます。

宣誓日 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

チーム名 _____

代表者住所 _____

代表者氏名 _____ ⑩